



FUJI WOMEN'S UNIVERSITY

No.63

Jan.20, 2017

藤女子大学
広 報

藤



ASEACCU 国際会議 2016 オーストラリア・ブルームにて

CONTENTS

- 巻頭言～藤女子大学創設70周年にあたり～／2
- 石狩市との連携「SATに学生が参加」／3
- カトリックのルーツを辿る旅 (日本カトリック大学連盟主催)／4
- 札幌市との連携／6
- 保育学科の子育て支援／8

巻頭 言



藤女子大学創設70周年にあたり

学長 永田 淑子

終戦からまだ1年半も経ていない昭和22年(1947年)1月26日、財団法人札幌藤高等女学校は理事長牧野キク名で文部大臣田中耕太郎に、国語科・生活科から成る「藤女子専門学校」設立の認可申請を行いました。その「設立の理由書」には次のように書かれています。

「終戦後における平和国家としての日本の再建は一に教育の力に俟つこと大なりと信ず。殊に最近に於ける婦人に与えられたる社会活動の部面益々拡大されつつある折柄、これに呼応して高き教養と深き識見とを有する婦人の必要なることに特に痛感す。然るに現下の衣食住等の悪条件にては女子の内地遊学等は到底困難なる状態なれば茲に万難を排し北海道唯一の私立女子高等学校教育機関たる女子専門学校を設立し多くの女性に専門教育を授け、有為なる婦人を養成してポツダム宣言受諾後における国家文化の建設の為貢献せしめんとする次第なり。」

この文章を読むと、当時の意気込みが目には浮かびます。敗戦後の混乱期にあった当時ですが、女性にも参政権が与えられて国の再建のために力を発揮することが求められるようになりました。このような社会情勢の中で、いち早く女性の高等教育を目指し、「高き教養と深き識見とを有する婦人」を育てて「国家文化の建設」に貢献しようという強い使命感に燃えていた先輩たちが存在していました。まだ衣食住も満足でなかった時代に、高い専門教育により人材育成をしようとする熱意ある人々と、向学心に燃える若い女性たちがいたこと、更にそれを支援する志の高い親たちがいたこと、その事実に深い感動を覚えます。日本再建の強い原動力に違いありません。

このような人々の熱意に支えられて、昭和22年(1947年)3月31日に設立認可を受け、5月に北海道初の女子のための専門学校が開校しました。国語科・生活科の入学定員はそれぞれ50名で、入学者は国語科52名、生活

科55名。東京都出身の1名以外、全員が道内の高等女学校出身者でした。昭和24年(1949年)12月に文部大臣に旧中学校・高等女学校教員の資格検定許可申請書を提出し、第1回生は3年生の3学期に一斉に受験勉強に入り、全員が国家試験に見事合格し、教員の資格を取得することができました。そのお陰で後輩たちは国家試験が免除され、2回生は教職課程を履修すると資格が得られるようになりました。

昭和24年(1949年)に新制大学が発足するのに合わせ、この専門学校を4年制大学にしたいと望みましたが、文部省は戦後新設の専門学校には短期大学になる道を与えました。そのため、開設して2年の専門学校を短期大学にする申請を行って、藤女子短期大学が昭和25年(1950年)に誕生し、以来、平成12年度(2000年度)まで50年間卒業生を送り出し続けました。

昭和36年(1961年)に開設した4年制の藤女子大学は、このような歴史を辿って生まれました。4年制大学への進学率はまだ非常に低い時代でしたが、「内地遊学」の余裕のない女子が道内で学ぶことができる4年制大学設立の要望が大きくなり、牧野キク学長がその社会的要請に応じて藤女子大学設置申請の英断を下しました。昭和36年(1961年)4月には、1年生と2年生(編入生)を迎えることができました。

大学の前身である専門学校の誕生から今年70周年になります。この間に巣立った3万人を超える卒業生たちは、勉学意欲に燃えた女性たちでしたので、卒業後も何らかの学びを続けている方々が非常に多いのです。この大勢の卒業生や市民のためにも、もっと多くの学びの機会を提供すべく、開かれた大学づくりを目指していきたいと思えます。

「SAT／スクール・アシスタント・ティーチャー」に学生が参加

「石狩市でのスクール・アシスタント・ティーチャー制度」 人間生活学科(教職課程担当)教授 伊井 義人

2002年度から石狩市内花川地区の小中学校を中心として、学生たちがスクール・アシスタント・ティーチャー(SAT)の活動を進めてきました。道内の他の私立大学も同様ですが、教職免許取得を目指す学生は4年生になって初めて教育実習を通して教育現場を「先生」として経験をします。しかし、教員養成に携わる大学教員としては、より早い段階で、教育現場の雰囲気や学生には経験してもらいたいと考えているものです。そんな折、算数と数学を中心に、アシスタントとして学生の力を必要としていた石狩市教育委員会からお声がけいただき、このSATプロジェクトが開始されました。

毎年20名近くの学生が市内の小中学校にお世話になっています。

近年では、石狩市内でのへき地にある小規模校での大学生と小中学生との交流も盛んに行われています。今回は、そのような小規模校の一つである厚田中学校でSATをしている現役生と卒業生にその経験を語ってもらいました。



初めての『先生体験』からの学び

人間生活学科3年
M.Nさん

私は現在、SATとして厚田中学校の授業に参加しています。私にとって、中学生と関わることは初めての経験であり、当初は不安の中、緊張していました。しかし、先生方をはじめ、生徒たちもとても暖かくSATを受け入れてくれました。不慣れな私たちに声をかけたり、質問をしてくれたり「教える」つもりが「教わる」ことの方が多いと感じています。

SATとしての活動は学習支援のみならず、中学生や教員の皆さんと給食を一緒に食べたり、部活動交流(絵本作りや調理実習)、家庭科の授業を担当したりと内容が濃く、技術面だけではなく、人としても成長できた気がします。

私は石狩の花川地区の出身ですが、今回の活動に参加するまで、花川以外についてあまり知りませんでした。しかし、石狩の広さと多様性に初めて気づき、石狩という故郷にもっと携わっていきたくとも考えるようになりました。

今後も活動は続きますが、今まで以上に真摯に取り組む多くのものを吸収して、教育実習や就職活動に生かしていけたらと思います。



SATから学んだ地域連携

江陵高校教諭(人間生活学科卒業生)
T.Hさん

私が厚田中学校でのSATに携わったのは在学中の3・4年生の時です。当時は「少しでも自分の力になれば良い」と軽い気持ちで始めましたが、教員となった今でも当時の取り組みを思い返す時があります。

札幌の大規模校出身だった私は、札幌から少し離れた地域でこんなにも受けている教育環境が違うのかと当時は衝撃を受けました。しかし、学校を訪問するたびに、教員が生徒一人ひとりと向き合う姿勢、生徒が純粋に様々なことを吸収しようとする姿勢に心を打たれました。

また、一番印象深かったのが、地域と学校の繋がりで、地域の方々が一体となり、学校行事を盛り上げようとする姿勢に暖かく、また生徒たちの成長を促すと感じました。私は現在、十勝管内の高校で福祉科教員として働いています。介護実習で生徒を地元施設に預けることも多く、日頃の授業の中でも、施設の方々に協力を仰ぎ、生徒の成長を見守ってもらっています。私にとって厚田SATは「人と人との繋がり」「生徒と向き合うということはどういうことか」という原点を教えてくれたと感じます。そんな原点を忘れず、今後も生徒たちと共に成長していきたいです。

「カトリックのルーツを辿る旅」に 本学学生が参加しました

◆「カトリックのルーツを辿る旅」



文学部
文化総合学科4年
O.Cさん



2016年9月7日に参加した「教皇フランシスコの一般謁見」の会場である、サン・ピエトロ広場は想像以上のパワーで満ちていた。

教皇フランシスコの人物は「親しみ」や「身近」という言葉で表現されることが多い。白一色の法衣を身につけていることや、オープ

ンカーのパパモビル、質素な住まいからそのような表現がなされることもあるのだろう。しかし私は、「教会は世界の隅々まで出向き、あらゆる人を受け入れなければならない」と訴え、積極的に人々の元へ出向く姿がそう感じさせる一つの要因であるのではないかと思う。カトリック信仰を持たない人へ洗足式を執り行う様子が何度も報道されていることから、どのような人に対しても、一人ひとりと真摯に向き合う姿がうかがえる。過去に、祖国の友人であるセルナ氏は「彼がやりたいのは教会を本来の姿に、つまり人間中心の教会に戻すことです。」(NATIONAL GEOGRAPHIC 日本版2015年8月号)と述べる。教皇フランシスコの情熱の源泉は人であり、その行動力が私たちに「親しみ」や「身近さ」を感じさせているのではないだろうか。

2016年9月7日の一般謁見で教皇フランシスコは、「神のいつくしみ」について次のように話された(バチカン放送局)。

イエスの教えはいつの時代でも現実的です。今日も

そのまま適応することが出来ます。現代多くの人々は自分勝手に都合のいいように神の姿を作り出しています。イエスの行いそのものの中に神の真の姿を求めなければなりません。

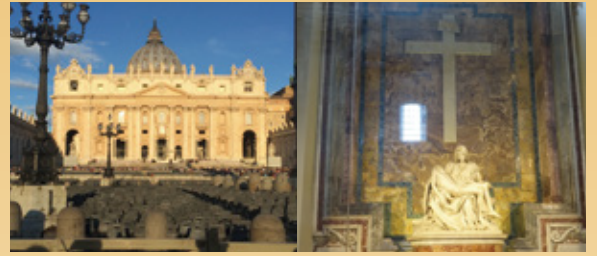
わたしたちキリスト者はイエスの示す神を信じています。わたし自身もイエスの教えてくれる神の愛の慈しみの「しるし」そしてその「道具」となれるよう大きな信仰の恵みを祈り求めましょう

2015年から2016年の1年間は、「いつくしみの特別聖年」である。私は教皇フランシスコについて、少しではあるが勉強をしてからこの旅に参加した。その中に「いつくしみ」とは、言葉ではなく、生き方であるという一節があった。一般謁見での教皇フランシスコのお話や、サン・ピエトロ広場に集まった大勢の人から放出される熱気から、私はいつくしみが生き方そのものであるということ、身をもって感じる事ができた。神は人に愛と許しを与え、我々はその愛に応えて、自分に与えられた人生を真摯に歩んでいかなくてはならない。そんな思いが、こみ上げてきた瞬間であった。

中学校で初めてカトリックの精神に触れ、10年が過ぎようとしている。社会に出ると、いままで結びつきが強かったカトリックの精神とどうしても隔たりが出来てしまう気がしており、どこか寂しい気持ちになっていた。「いつくしみの特別聖年」にこの旅行が企画され、参加できたことはいままでの学びを振り返るとともに、これからの自分自身の在り方についても考えることができる機会となった。

先述のとおり、私は教皇フランシスコの衣服や住まいなど目に見えるものだけではなく、その積極的な行動に大変関心を抱いている。間近で感じる事ができたエネルギーを自身の中だけではなく、他者へ還元していきたいと思った。

2016年9月、日本カトリック大学連盟の創設40周年を記念し、「カトリックのルーツを辿る旅」が行われました。今回の事業は、建学の理念を共有する日本のカトリック大学の学生たちが集い、カトリックゆかりの地であるイタリア（ミラノ、フィレンツェ、アジジ、ローマ）を巡る中で、カトリックへの理解を深めるという趣旨により実施されたものです。本学からは2名の学生が選考・派遣されました。参加学生のレポートを、当地で撮影された写真とともにご紹介いたします。
※事業への参加にあたり、日本カトリック大学連盟より助成金を支給していただきました。



◆ 2000年の祈りが集まる 聖地を訪れて



文学部
文化総合学科4年
O.Mさん



今回、「カトリックのルーツを辿る旅」に参加したことで、素晴らしいご縁や学びを得ることができました。関心ある分野についてはさらに新しい発見があり、真に満たされる10日間を過ごすことができました。

ルーツを辿る旅7日目の9月7日、イエスキリストの使徒、聖ペトロからローマ教皇まで2000年にわたり歴史を紡いできたバチカン市国を遂に訪れました。晴天でありとても清々しい空気の中、限りなく広がる青空とサン・ピエトロ大聖堂を右手に、ここが紛れもなく聖地であることを実感しました。カトリックの聖地であるこの小さな国は信仰と芸術が混じりあい、国全体が美術館のようでした。

世界最大級の大聖堂である、サン・ピエトロ大聖堂の偉容は想像をはるかに超え、途方もない空間はただただ大きく、「美しい」の一言に尽きます。現在、カトリックでは「いつくしみの特別聖年」と呼ばれる特別な信仰年の最中。このような特別な年が、日本カトリック大学連盟40周年と重なりこれも神様のお導きだと感じました。サン・ピエトロ大聖堂に入ると若い頃のミケランジェロの代表作、イエスと聖母マリアの像「ピエタ」がありました。ガラス越しでもつるりとした質感が伝わり、

少し口を開き穏やかな表情のイエスをしっかりと抱えるマリアは若く、清らかでした。そして待ちに待ったカトリックの総本山であることをより実感できたフランシスコ教皇様一般謁見参列。席につくと、教皇様と非常に近い位置でした。教皇様ご登壇まで2時間近くありましたが、席からバチカンを見渡し想いを巡らせていると、あっという間に時間が過ぎました。教皇様のご登壇されると興奮と感動の連続でした。私たち日本のカトリック大学連盟の名前が読み上げられると、日本国旗の旗を大きく振り、気持ちは最高潮に達しました。約2時間お話を耳を傾けこの空気を味わっていました。

私は幼稚園、中学から大学まで藤学園に身を置き、カトリックはいつも身近な存在でありました。大学卒業を間近に控えた今、その集大成として、この地を訪れ、謁見に参列できる機会に恵まれたことを大変嬉しく幸運に感じます。今回のカトリックのルーツを辿る旅は多くの方の支えがあり、無事に終えることができました。一緒に感動を分かち合えた18名の仲間たち、この旅を可能にしてくれた両親、藤女子大学に感謝の気持ちでいっぱいです。今回の旅を機にカトリックの知識をより深めていきたいです。また多くの素晴らしい経験をさせて頂いたことを、自分だけに留めずに何かの形で発信できたらと思います。



夢に向かってひた走る学生たちが札幌を見つめる番組それが「ウォッチングさっぽろ」。今年で3年目、1クール3ヶ月(10月-12月)を藤女子大学の学生が担当しました。その体験レポートについてご紹介します。



「円山動物園の新しい魅力」

日本語・日本文学科3年 O.Aさん

私はこのたび「ウォッチングさっぽろ」という番組のリポーターに選んでいただき、円山動物園に新しくオープンしたアフリカゾーンに伺いました。

撮影するにあたり、初めてのことで戸惑うことも多くとても不安でしたが、撮影スタッフの皆さんや、動物園職員の皆さんのおかげで楽しく収録を終えることが出来ました。

このアフリカゾーンはライオンやキリン、カバなどのアフリカに生息している動物が展示されています。それぞれの飼育スペースでは動物本来の本能や生態を引き出せるような設計になっていて、今まではなかなか見ることが出来なかった動物の一面を見学することが出来るようになっていました。私が動物園に伺った時にはライオンが岩の上で遠吠えをする姿や、カバが水に勢いよ

く飛び込む姿などを見ることができました。また、今回はまだ入ることが出来なかったのですが、キリンの飼育スペースの横にある建物には、二階に上がるとキリンの顔の高さまで近づけるという仕掛けがあるそうです。また、ミーアキャットもアフリカゾーンに展示されるそうで、とても見ごたえのあるエリアになりそうです。

私は今回のリポーター体験を通し、動物園で様々な新たな発見をしました。動物を見ているだけで時間を忘れ、とてもいいリフレッシュになりました。大人になるにつれ動物園に行く機会が減った、興味があまりないという人も多いかと思います。しかし、今の円山動物園には新しいエリアが増え、また様々なイベントも行われています。子供の頃行った時とは違う新たな発見があるはずです。みなさんも久しぶりに動物園に訪れてみてはいかがでしょうか。



(右)文化総合学科3年 K.Mさん

【番組詳細】

放送局：TVh テレビ北海道

(テレビ東京系列)

番組名：ウォッチングさっぽろ

放送日時：毎週火曜日

(22:54 ~ 23:00)

札幌市の秋元克広市長が様々な情報を発信する動画「教えて! 秋元市長」のコーナーでMCを務めました。動画で体験した感想や思いを語ってもらいます。



「札幌が誇る定山溪の魅力」

文化総合学科3年 K.Nさん

私は今回、「札幌が誇るくつろぎの温泉郷・開湯150周年を迎えた定山溪」について秋元市長にお話を伺いました。インタビュアーの体験は初めてだったので最初はカメラの前に立つだけで緊張してしまいましたが、市職員の方のアドバイスのおかげで、とても和やかな雰囲気の中、撮影することが出来ました。

定山溪には幼い頃から家族と足湯に入りに行っていました。150年という長い歴史があるとは知りませんでした。この地区には、温泉の他にも八剣山の麓での乗馬体験、果樹園でのくだもの狩りなど自然を満喫できる場所があったり、近年ではカフェやバーなど多くの飲食店が新規出店していることを知りました。さらには、これらの観光スポットを気軽に回ることのでき

る自転車のレンタルサービスもあります。私も実際に乗らせていただきましたが、温泉街を自転車で回るのはなかなかできない体験で、風を切ったサイクリングはとても気持ちよかったです。今回の撮影では、笑顔が絶えない市長とともに定山溪の魅力を伝えることができ、とても貴重な体験をさせていただきました。たくさんの魅力が溢れる定山溪を、札幌市民の方にはもちろん、国内外からの観光客にももっと知ってもらいたいと思いました。

この経験を通して札幌がもっと大好きになりました。また、札幌市の方々や定山溪温泉の方々とお話して、札幌市や定山溪への大きな愛が感じられました。私も札幌市民として、街づくりに貢献できるよう身近なことから取り組み、さらにそこで自分が成長していければと思います。



札幌市公式ホームページ

「教えて! 秋元市長」のコーナーで紹介されています

教えて! 秋元市長

検索



『Colorful』

北16条キャンパス大学祭
藤陽祭実行委員会委員長
英語文化学科3年
S.Hさん

2016年度の藤陽祭のテーマは「Colorful」でした。このタイトルには新しい企画に挑戦し、色鮮やかな藤陽祭を作り上げようという思いが込められています。

1年生は、藤陽祭の顔となる立て看板を作ってくれました。初めてのことで戸惑うこともあったと思いますが、当日までにテーマに沿った素敵な立て看板が完成しました。2年生は、学内に今までにないような色鮮やかな装飾を施してくれて、3年生はその発想に驚かされました。2年間藤陽祭を経験した3年生は、何か新しい企画に挑戦しようと考えを巡らせました。今人気を集めているゆるキャラはどうだろうか。藤陽祭のオリジナルキャラクターをつくらう！ などなど。しかし現実には厳しく、時間や予算の関係上、レンタルによる熊の着ぐるみパフォーマンスになりました。また当日は、

実行委員がそれぞれの仕事をこなしながら、その着ぐるみの中の人を演じることに。喜んでやってくれる人、そうでない人、様々な反応でしたが、着ぐるみが学内をまわると、小さいお子様だけでなく、在学生にも人気となり、写真をたくさん撮っていただきました。

藤陽祭を通して、企業の方々との関わり方や、自分の仕事に責任を持ち最後までやり遂げることなど、貴重な経験をさせていただきました。この経験によって今後の私たちの人生はきっと「色鮮やかな」ものとなるでしょう。連日遅くまで準備をし、裏方に徹してくれた実行委員のスタッフ、本当にお疲れさま！



最後に、藤陽祭にご来場くださいました皆様、また、藤陽祭にご支援、ご協力いただきました皆様、ありがとうございました。実行委員一同を代表してお礼申し上げます。



情熱を込めた藤花祭

花川キャンパス大学祭
藤花祭実行委員会委員長
人間生活学科2年
I.Nさん

2016年10月8日、9日の2日間、第25回藤花祭が開催されました。テーマは「Girl's Passion」でした。私たちの情熱が来場してくださった皆様に伝わり、「たくさんの笑顔が溢れるように頑張ろう」という思いを込めたものです。

私たち実行委員2年生は昨年度の経験を踏まえ、「より良い大学祭」をモットーに新1年生と共に、4月から準備に取り組みました。時には困難もありましたが、2年生皆で全身全霊を傾けて、乗り越えようと頑張りました。そして1年生も藤花祭成功を目標に、2年生を献身的に支えてくれました。藤花祭に参加した団体の方々も、日々の活動の発表の場として準備に専念し、様々な想いを持って当日を迎えたことでしょう。藤花祭に関する全ての人々が情熱を持って臨

んだことにより、有意義な2日間にする事ができました。

学生たちが魂を込め、情熱をもって創り上げた今回の藤花祭は今まで以上に盛りあがったと自負しています。開催中には急な天候の変化で寒い日もありましたが、足を運んでいただいた沢山の方々が、Passion溢れた石狩鍋と私たちの笑顔で心と身体を温めることができたら、とても嬉しいです。

ご来場された皆様、運営にお力添えを賜りました協力会社各位、また、ご助力をいただいた地域の方々、学生、諸先生方、皆様のおかげで藤花祭は盛会の内に終わることができました。

私たち学生にとって、この藤花祭は学んだ事を今後につなげてゆく、良い経験になったと思っています。来年度は、さらに充実した素晴らしい祭りになることを期待しています。



保育学科の子育て支援 「お手てつないで」



保育学科 教授
木脇 奈智子



保育学科の子育て支援は、1990年代の「どんぐりひろば」に始まりました。地域の子どもたちにたいへん人気がある、子育て支援の先駆的なひろばであったと聞いています。その後、4年制大学への移行期である2005年に「子育て支援(理論)」と「子育て支援(演習)」として単位化され、理論と実践を総合的に学ぶ科目となりました。子育て支援はなぜ必要か、少子化はなぜ進行しつづけるのかをおもに学び、子育てに奮闘する親たちの声を共感的に理解することをねらいとしています。

現在、子育て支援演習は「お手てつないで」の愛称で地域に公開しています。約20名の3年生と20組程の親子(子どもは0-3歳)、3人のスタッフが参加しています。

授業のねらいは「学生が親と関わる」ことです。子育てが難しい現代において、保育者が保護者とその暮らしの背景を理解し、対等な目線で信頼関係を築くことは家族支援の基本です。「子どもが自由に遊べるように工夫しながら親と対話する」という要求にはじめはとまどう学生たちも、次第にその醍醐味を知ることになり、子どもを囲んでいい居場所をつくっています。

卒業後に札幌市の子育て支援センターに携わる学生も多く、地域での人気を博している「お手てつないで」が、花川の地域社会に留まらない社会貢献の種となることを願うものです。



「お手てつないで」に参加して

保育学科 3年 S.Nさん

「お手てつないで」では、私たち学生が遊びや発表などを企画して子どもたちと関わっています。これまでに屋外での水遊びやしゃぼん玉、カブラ、新聞プールなどを行いました。どれもとても楽しんでもらうことができました。新聞プールで遊んだ時は何のためらいもなく中に入って遊べる子どもや、怖くて外で遊んでいる子どもなど、様々な姿を見ることができました。0歳～3歳までの子どもが来ているため、子どもたちの年齢に応じた発達や経験の違いを実感することができます。

学生は1人ずつ担当する親子が決まっており、子どもたちと遊びながらお母さんとお話をします。私が担当してい

るのは3歳の男の子と女の子の双子の親子です。いつも活発に遊んでいます。初めの頃、子どもたちはお母さんと離れて遊ぶことができませんでしたが、今ではお母さんが違うお部屋に行っても泣くことなく慣れてくれました。

お母さんとは、子どもたちのことや子育てで大変だったこと、以前働いていらした幼稚園の話や私の進路の話など、様々な話をしています。子どもの遊びを見ながらお母さんとお話することは難しいですが、子育て中のお母さんとお話する機会はあまりないので、私にとってとても良い経験になっています。また1年を通して子どもたちと関わり、かれらの成長を感じることができる貴重な時間です。

大学へのご支援ありがとうございます

藤女子大学の寄付募集活動は、みなさまの温かいご支援により、2012年度からの累計が1億2,500万円に達しました。寄付募集につきまして深いご理解とご協力を心よりお礼申し上げ、ここに感謝の意を表しご芳名を掲載させていただきます。2016年度のご寄付につきましては、次号の広報「藤」にて、使途等をご報告いたします。

寄付者ご芳名(第9回) 期間 2016年4月1日~2016年9月30日(敬称略・お申込順)

〈保護者〉	(卒業生)	(旧教職員・旧役員)	〈教職員・役員〉	〈その他、法人等〉
佐藤 守 田中 裕実 匿名 27名	乾 匡子	田中 彌八	東川 剋美	山崎 清司
中野 人文 片岡 稔順 計 51名	木村 玲子	Flórez Generoso		(スコラスチカ山崎治子様のご遺志として)
小澤 美和 中山 七恵	石川 雅子	笹本 昭夫	計 1名	藤の実会
澤井 篤司 磯部 修一	恩村 恭子			
西 一浩 酒井 俊一	山崎 玲子	匿名 3名		匿名 1件
倉田 敬記 植西 清		計 6名		計 3件
石山 茂 西 勝美	匿名 1名			
小川 浩 米田 和志	計 6名			計 67件
日向 正典 小林 法夫 (有)三陽商産)				13,062,000円
三谷 耕 守田 博				
田中 克志 熊谷 一昭				
三上 修				
大庭 文明				

2012年度実績：377件 12,081,866円 2014年度実績：191件 76,223,954円
 2013年度実績：227件 17,413,757円 2015年度実績：181件 6,402,354円
2012年4月～2016年9月末までの累計 1,043件 125,183,931円

ご寄付のお願い

藤女子大学は、財政基盤をより強化して教育研究環境の整備と学生支援体制のさらなる充実を図り、創立の精神に基づいて女性の育成に努めてまいります。今後とも、ご支援をいただければ幸いです。

【募資金額】

個人………1口1万円(なるべく2口以上のご協力をお願いしておりますが、金額にかかわらず有り難くお受けいたします)
 法人・団体……金額は特に定めておりませんが、格別のご協力をお願いいたします。

【お申込み・払込み方法】

寄付申込書をご送付の後、お近くの郵便局・銀行から下記口座宛にお振り込みください。なお、本学専用の払込用紙で郵便局から払込手続きをされますと、手数料が無料になります。寄付申込書・払込用紙等をご入り用の際は、本学寄付金募集窓口にご連絡ください。

郵便局 振替口座 02780-7-50398 藤女子大学
 銀行 北洋銀行 北七条支店 (普) 3989004 藤女子大学 募金口
 北海道銀行 札幌駅北口支店 (普) 1185721 藤女子大学 募金口
 三菱東京UFJ銀行 札幌支店 (普) 4021677 学) 藤学園 藤女子大学

会計課寄付金募集窓口 TEL: 011-736-5044 FAX: 011-736-5230 E-mail: kaikai@fujijoshi.ac.jp URL: http://www.fujijoshi.ac.jp

学内ニュース

2016年6月～12月に下記の行事、講演会等を実施しました。

- ❖ **第18回家庭教育研修講座** 7月31日(日)
- ❖ **英語で楽しむ! Let's Enjoy English** 8月9日(火)～10日(水)
- ❖ **英語文化学科公開講演会** 8月12日(金)
 「Ke aukahi hō'ola i ka 'ōlelo Hawai'i ハワイ語復興運動について」
 講演者: 大原 由美子氏(ハワイ大学ヒロ校 准教授)
- ❖ **マザー・テレサ列聖記念講話**
 ～いたわりといつくしみ深い神の愛を運ぶ人～ 9月3日(土)
 講演者: Sr.ジャヤ・マリア(神の愛の宣教師会)
 通訳: Sr.純愛
- ❖ **日本語・日本文学特別公開講演会** 9月9日(金)
 「オノマトベから見た日本語の意味変化-「ほかほか」のゆくえ-」
 講演者: 小野 正弘氏(明治大学文学部 教授)
- ❖ **実験動物慰霊式** 9月23日(金)
- ❖ **食物栄養学科同窓の集い** 10月8日(土)
- ❖ **キリスト教文化研究所公開講演会** 10月8日(土)
 世界の古典「聖書」『旧約と新約をつなぐもの。信仰と約束の継承について』
 講演者: 阿部 包氏(本学教授)
- ❖ **保育学科リカレント講座** 10月11日(火)
 「愛着の絆」-保育者にとって、なぜそれが大切なのか-
 講演者: ヘネシー 澄子氏(東京福祉大学名誉教授)
- ❖ **文化総合学科公開講演会** 10月15日(土)
 「フィンランドにのこされた中世カトリック教会資料」
 講演者: 平井 孝典氏(本学講師)
- ❖ **キリスト教文化研究所秋の公開講座-教会と音楽-** 10月29日(土)
 『パイプオルガンに親しむⅥ』
 演奏者: 大野 敦子氏(カトリック北一条教会オルガニスト)
- ❖ **慰霊祭** 11月2日(水) 於マリア院聖堂
- ❖ **人間生活学部 保護者懇談会** 11月5日(土)
- ❖ **外国語教育研究センター主催 藤女子大学公開講演会** 11月6日(日)
 「英語のアクティブラーニング-学習者の心と脳をトキめがす授業とは-」
 講演者: 田尻 悟郎氏(関西大学外国語学部 教授)
- ❖ **図書館情報学課程主催 公開講座「土曜講座2016」** 11月26日(土)
 資料の保存と図書館情報学-映像資料・モノ資料をめぐる実務と課題
 ・「記録情報の保存と活用: 記憶遺産からクリントン・メール問題まで」
 講演者: 坂口 貴弘氏(創価大学創価教育研究所 講師)
 ・「映画フィルムに残る地域の記憶: 『文京映像史料館』の取り組み」
 講演者: 石原 香絵氏(NPO法人映画保存協会代表)
- ❖ **FD講演会** 12月26日(月)
 「変わりゆくまなびに対応するために」
 講演者: 黒上 晴夫氏(関西大学総合情報学部 教授)

私のカレッジライフ

藤の学生は、どのような学生生活を過ごしているの？
このコーナーでは、学部ごとに1名ずつ学生の1週間のスケジュールをご紹介します。



文学部
英語文化学科
3年 I.Mさん

将来のビジョン

2年生のときに受講した心理学の講義で、ホームレスや子どもの貧困など、今も日本に存在する社会格差を知って驚きました。そういった問題への解決策を考えてそれを実行に移したり、たくさんの人の幸せに貢献できるような仕事ができればいいと思います。また海外で過ごした日々の中で、相手の英語を正確に聞き取り、自分の思いを十分に伝える難しさに直面したので、英会話上達に向けての努力も続けたいです。

受講科目について

児童英語活動II / 英語を母語としない子どもに英語を教えるためのアプローチを、理論と実践の両面から学んでいます。夏には実際に子どもたちに大学に来てもらい実習を行います。丸2日かけて指導案を作り、試行錯誤を重ねて臨むレッスンは決して楽なものではありませんが、担当した子どもたちがかけてくれる「楽しかった!」の一言を聞くと、疲れも忘れてしまいます。自分自身の成長にもつながる、実り多い授業です。

English Discussion I / 毎回、ひとつの課題についてクラス全体で意見を交わし、実践的なディベートを学ぶ授業です。政治や経済など時事問題に関する知識が必要なトピックもあるので、意識的にニュースを見るようになりました。身のまわりで起きる出来事についても、それに対して自分はどんな見方をするかということを考える習慣がつかってきました。

放課後(余暇)の過ごし方

週に1回、近くの小学校で英語指導のボランティアをして、児童英語活動で学んだことを実践しています。明るく活発な子どもたちに囲まれて授業するのはとても楽しいですし、その笑顔からはいつも元気をもらっています。放課後は友達と食事やカラオケに行ったり、アルバイトをしたりしています。この夏には貯めたお金でニュージーランドへ行き、チャイルドケア・ボランティアとホームステイを経験しました。英語でコミュニケーションをとる難しさもありましたが、現地の人たちのあたたかい人柄や文化の違いに触れ、毎日が素敵な出会いと経験でいっぱいの、充実した夏休みを過ごせました。

	mon	tue	wed	thu	fri	sat
I 講時 9:00 ~ 10:30		小学校 指導案 作成				
II 講時 10:40 ~ 12:10			Academic Writing II	白楊 小学校 ボランティア	イギリス 文化論 II	
昼休み						
III 講時 13:00 ~ 14:30	English Discussion I-b	コミュニ ケーション 演習		総合研究 演習A	児童英語 活動II (隔週)	
IV 講時 14:40 ~ 16:10	英語学 概論b		英米文化 研究b	地域文化 講義D	児童英語 活動II (隔週)	
V 講時 16:20 ~ 17:50	※集中講義 児童英語活動a					

正規授業以外の活動... ※時間割 必修 選択



人間生活学部
保育学科
2年 O.Mさん

将来のビジョン

私は今、グループ実習で保育園と幼稚園に行っています。どちらの実習もやりがいがあり、とても楽しいです。いまはまだ、幼稚園と保育園のどちらに就職するか決めることはできませんが、現時点では、市町村の子育てセンターの保育士を目指しています。保育士になるためにも、学びを深めていきたいと思っています。

受講科目について

乳幼児・障害児実習 / 学生でグループになり、それぞれ藤幼稚園と羊丘藤保育園にグループ実習に行きます。実習が無い時は実習準備の時間となります。2年生になって初めての实習なのでとまどい、準備に追われて大変なことも多いですが、グループのメンバーと力を合わせて1つのことを作りあげる達成感と子どもとかわる楽しさが実感できます。

幼児歌曲伴奏法 / 保育士を目指すには必ず必要となるピアノのレッスンの時間です。学生1人1人に先生がマンツーマンで教えてくれます。また、藤女子大学にはピアノを練習できる部屋があり、授業以外でも自習としてピアノを練習することが出来るので、今までピアノの経験がない人も必ず弾けるようになります。

放課後(余暇)の過ごし方

私は大学のサークルに所属せずに、週に1回、自閉症の子どもたちが放課後に集まる「放課後クラブ ニコリ」にボランティアに行っています。最初の頃は子どもたちとどのようにかかわって遊ばばいいのかわからず、苦戦しました。でも今は、子どもたちに名前を覚えてもらい、子どもたちの方から遊びに誘ってもらえるようになり、とても嬉しいです。また、週に1回、石狩市の手話サークル「ひまわり」にも所属しています。手話を覚え、聾啞者の人と手話でコミュニケーションをとることは大変で難しいけれど、とてもやりがいがあり、楽しく手話を勉強しています。

	mon	tue	wed	thu	fri	sat
I 講時 9:00 ~ 10:30					乳幼児・ 障害児実習 (2週間毎)	
II 講時 10:40 ~ 12:10	教育 心理学I	保育の 心理学	Academic Reading II	保育表現 技術 言語活動		
昼休み						
III 講時 13:00 ~ 14:30	児童文学	肢体不自由児 の心理・ 生理・病理	造形基礎 演習	子ども家庭 福祉論II (障害児)		
IV 講時 14:40 ~ 16:10	肢体 不自由児 教育総論	幼児歌曲 伴奏法	知的 障害児 教育	保育者論	乳幼児・ 障害児実習	
V 講時 16:20 ~ 17:50						

※時間割 必修 選択

素顔の先生 第5回

日本語・日本文学科 准教授

松村良祐 先生



第5回目の「素顔の先生」は、キリスト教学、聖書学などの科目を担当し、中世哲学、特にトマス・アキナスを中心に研究されている松村良祐先生の素顔を探ってみました。

Q1. 学生時代にのめりこんだことは？

学部時代に関して言えば、それほど勉強はしなかったかもしれません。むしろ、体育会系のフェンシング部に所属していて、週3回の部活動の方に熱心だったと思います。フェンシングは競技人口が少ないこともあり、大会で日本強化選手などと対戦することもあったのですが、彼らには手も足も出なかったことをよく覚えています。また、部活の遠征や合宿など、本当に楽しかった思い出があります。最近、フェンシングのできる場所が札幌にもあることを知ったので、また始めようかとも考えています。

Q2. なぜトマス・アキナスに興味を持ったのですか？

トマスに関心を持つようになったのは学部・大学院を通じて僕の指導教授であった長倉久子先生との出会いが大きなき要因です。学部時代は様々な哲学者に興味を持ちましたが、長倉先生は13世紀の哲学者であるトマスとボナヴェントゥラを専門的に研究なさっていたので、それが切っ掛けとなって自分も関心を向けるようになっていったのだと思います。

トマスの大きな魅力はその生涯を通じて思想に大きなブレがないことです。対比項としてプラトンを挙げるのであれば、著作の主題や作劇技巧、文体、ソクラテスの役割を通じて彼の思想の内に或る程度の変化・発展を見取ることが可能ですが、トマスの内にはそうした変化が余りないともされています。その理由について、長倉先生はトマスがその生涯を通じて見るべきものを一貫して見ていたからだとも仰っていたのですが、そうした点に魅力を感じたのかもしれません。学部生のときは、トマスが行う分析の緻密さに驚くばかりでしたが、修士論文を書いているときにトマスがその無機質で乾燥した言葉を通して見ている、或いは見ようとしている世界の美しさに気付き、より熱心にトマスを読むようになりました。今ではボナヴェントゥラも研

究対象の一つになりましたね。

Q3. 趣味はなんですか？

ここ数年で出来た趣味は料理をすることです。藤女子大学に赴任した当初は20時頃に夕食のためのお惣菜を買って帰り、油分の多いものを食べていたので、赴任後1、2年間で少し体重が増えてしまいました。それからは節制をしなければならないと思い、自炊するようになったので、体重が落ちると共に、自分で料理を作る楽しさにも目覚めていきました。プリンを作ることは、最近の一つの習慣にもなりましたね。今後の目標は魚を3枚に下ろすこと、魚料理に挑戦することです。また、北海道の冬は緑を目にする機会が少なくなるため、自宅でハーブを育ててみたいとも思っています。

Q4. 最近読んだおすすめの本は？

スウェーデンの作家であるペール・ラーゲルクヴィストの『バラバ』です。バラバは、「新約聖書」においてイエスの代わりに恩赦・釈放された囚人として登場していますが、この作品では釈放後の後半生がテーマになっています。そこでは信仰と不信仰の狭間に揺れ動くバラバの姿が描かれ、「この作品における神とはどのような存在か」ということを考えながら読むと非常に面白くもあり怖くもある作品です。短編小説ですので、興味のある方はぜひ手に取ってみてください。

Q5. 先生の今後の目標は何ですか？

トマスとボナヴェントゥラの研究を今後も進めていき、しっかりとした良い仕事をしたいと思っています。とりわけ、ボナヴェントゥラは日本においても研究者の数が少ないため、基礎的な研究と共に各著作の翻訳が求められている思想家です。そうした仕事に僅かでも関わることができたらと思っています。



文学部
日本語・日本文学科
3年 M.Mさん

普段聞くことのない松村先生の学生時代やプライベートな話を聞くことができたり、フェンシングの剣を持たせて頂いたり、とても貴重な経験をすることができました。特にトマス・アキナスに興味を持つきっかけとなった話は興味深く、私も卒業論文で研究対象にしっかり向き合いたいと思いました。



文学部
文化総合学科
3年 T.Mさん

今回のインタビューでは先生の意外な一面を見ることができたり、新しい発見もあつたりと、とても楽しい時間を過ごしました。インタビューの中で「トマスが考えるような美しい世界を自分も見たい」と仰っていたのがとても印象的でした。

今回は、教皇に承認された兄弟たちの新しい生活の中で、フランシスコの心に生まれた内的な葛藤について触れたいと思います。フランシスコは求めていた新しい生活、神との深い交わりの中に生きる生活、山奥で昔からベネディクト会の修道士たちが隠遁所として使っていた洞穴などに籠った祈りの生活——このような生活に心から魅かれながら、度々、隠遁所に出かけて祈りのうちに過ごしていました。そして、生涯このような生活を送ることへの強い憧れも感じていました。

一方、彼の心には世俗的な名誉や富や快樂に溺れた生活をしている当時の人々に、神の愛を伝える望み、その使命感も生まれてきていました。福音に従った新しい生活へ人々を招き、そして、ハンセン病患者など世の中で疎んじられている人々への愛の奉仕に生きる望みも断ちがたいものでした。

彼はこのような心の葛藤の中で、神が彼に望んでおられる道を知りたいと考えていました。そこで、ある時、ポッジョ・ブストーネという山の中の隠遁所で過ごしていた時、彼はそこから仲間をアシジの修道女クララの所に遣わして、神は自分に何をお望みか、と尋ねさせました。その

時、クララは返事として、「人々の中に出て行き、神の御心と回心を告げ、人々に神の平和を宣べ伝えるように」との伝言を与えました。そこでフランシスコはこの場所から、二人ずつ兄弟たちを派遣して人々に平和のメッセージを告げる新しい生活を始めました。

このようにしてフランシスコは、修道生活の歴史において新しい形の修道会を始めました。聖ベネディクトに始まる従来 of 修道生活は、人里離れた修道院で共住の定住生活を送り、祈りの内に農耕生活や学問をしたりして自給自足の生活をしていました。一方、フランシスコは二人ずつ組んで至る所に出かけ、人々に平和と罪の赦しのための悔悛を宣べ伝え、托鉢しながら神の摂理に全く信頼して生きる生活を始めたのです。



ポッジョ・ブストーネの隠遁所



人々に向かって出かけるフランシスコ

北16条キャンパス新校舎 3月完成予定

9階建新校舎
工事外観（東側）



2017年1月9日現在

工事中の
アクティブ
ラーニングフロア
部分（2階）



2016年12月16日現在

発行 藤女子大学 編集 広報「藤」編集委員会

北16条キャンパス 〒001-0016 札幌市北区北16条西2丁目 TEL (011) 736-0311 FAX (011) 709-8541
花川キャンパス 〒061-3204 石狩市花川南4条5丁目 TEL (0133) 74-3111 FAX (0133) 74-8344

ホームページアドレス <http://www.fujijoshi.ac.jp>